

平成13年度家庭教育子育て支援推進事業

いわてっ子 ばんざい

思春期編



岩手県教育委員会

はじめに

家庭教育はすべての教育の出発点であるといわれていますが、近年の少子化、核家族化など社会が変化する中で、子育てに関する不安や悩みを抱く親が増えています。岩手県教育委員会では、家庭教育における子育てを支援するため、家庭教育資料の発行やテレビ放送「いわてっ子ばんざい」、電話相談「すこやかダイヤル」の実施など、さまざまな事業を展開しております。その一環として、今年度は中学2年生の保護者を対象とした家庭教育資料を発行することになりました。

中学生時代は、心身共に成長する時期であり、大人への第一歩を踏み出す時期でもあります。子どもたちの成長にとって、家庭や学校、地域社会で出会うさまざまな体験が人間形成の貴重な糧となります。特に家庭は、家族とのふれあいの中で人間としての基本を学ぶ場として重要です。家庭の役割や子育てのあり方も変わりつつありますが、親が子どもをいとおしく思う気持ちや子どもが楽しい家庭を望む気持ちは、いつの時代も同じです。しかし、子どもたちは、自分の夢や理想を追い、最も身近な存在である親や教師をはじめとする大人との関わりをわずらわしいと思う気持ちも顕著になります。親はどのように子どもに接したらよいのか分からなくなったり、そっとしておいた方がよいといった誤った理解をしていることがよくあります。また、子どもに対する親の関心も、まだまだ学力を高めることに偏りがちで、豊かな人間性を育む子育てが軽んじられる傾向にあるように思われます。

さらに、自然体験や地域でのふれあいなど、今まで当たり前に行われていたことが影をひそめてしまいました。このような状況の中、家庭の役割や子育てについて、子どもを持つ親だけでなく、社会全体が子育てをするためのよい環境づくりを真剣に考えなければならない時期にきていると思います。

本冊子は、心身の発達状況、家庭生活、学校生活、地域活動、体験活動の重要性等、中学生の子どもを持つ親として理解しておきたい事柄をいろいろな視点から取り上げたものです。多感な中学2年生という子どもの発達を正しく理解し、子育てにあたるための資料として、御活用いただければ幸いです。

おわりに、本冊子の作成にあたり、執筆と編集に御協力いただきました作成委員会の皆様から心からお礼申し上げます。

岩手県立生涯学習推進センター
所長 大橋 清司

もくじ

はじめに

- 1 家庭生活の本質
- 2 家庭生活上で大切にしたいこと
- 3 おたくの家庭生活のリズムはどうですか
- 4 思春期～ゆれ動く心～
- 5 二次性徴の発現～中学生の身体的発達の特徴～
- 6 子どものストレスを解消するために
- 7 望まれない命～セックスについて～
- 8 食べることの見直し～我が家の味は最高～
- 9 今、中学2年生はこんなことを考えています～中学生の意識調査から～
- 10 完全学校週5日制が始まります
- 11 進路指導（進路は親子の語りから・地域が育てる勤労意欲）
- 12 子どもの心を早くキャッチしよう～いじめに対する親の対応～
- 13 子どもの心を早くキャッチしよう～子どもが学校へ行かなくなったとき～
- 14 もっと社会の問題に目を向けよう
- 15 ストップ・ザ非行！
- 16 心を育てるボランティア活動
- 17 中学生の人権とは～子どもにも意見を表明する権利があります～
- 18 地域の見直し～自分の家でできることから始めよう～
- 19 地域活動への参加をとあして社会性を
- 20 中学時代における父親、母親の役割
- 21 親子のだんらん～話し上手・聞き上手に心がけましょう～
- 22 子どもとともに夢を語り合おう
- 23 電話相談「すこやかダイヤル」



写真提供

北上市立和賀西中学校（園児に自作の絵本を読み聞かせをしている中学生）
 （体育祭で力強くソーラン節を踊る中学生）
 岩手県立栗原青少年の家（かるがも親子体験教室野外活動に積極的に参加している中学生）
 滝沢村ジュニアリーダーズクラブ「クレヨン」（地域交流活動の参加を楽しむ子どもたち）
 滝沢村「劇団ゆう」（芸術祭たきざわ2001で練習の成果を發揮している子どもたち）

1

家庭生活の本質

子どもを一人前の人間として自立できるように育てることは、家庭の大きな責任です。身の回りのことだけでなく、精神的にも経済的にも自立することが求められます。

しかし、経済面ばかり注目し、「よい職につくためには、勉強さえできればよい」という風潮もあり、精神面を育て、自立させることは軽視されがちです。また、核家族化や少子化など家族形態の変化によって家庭の教育力が弱まり、親は子育てに自信がもてなくなっています。

赤ちゃんがこの世に産声をあげたとき、はじめて出会ったのは、母親や家族です。子どもは、身近な人への信頼関係を深め、よりどころにして成長し、やがて思春期を

迎え、自立への最終段階を迎えます。

この時期は、親や大人を批判し、困らせているかもしれませんが、順調に育ってきている証拠です。無理難題や青臭い議論も、親を信頼しているからこそ話しかけてくるのです。また、親がどんな対応をするのが確かめているのかもしれませんが。

自分の思春期の経験、当時の夢や希望を語ること、子どもの抱えている問題を子どもの側に立って一緒に考え悩むこと、これは身近にいる親だからこそできることです。正解はなくても、子どもの気持ちを真剣に受け止める姿勢が、信頼の基盤となるのです。



ワンポイント アドバイス

一親の役目はものさしづくり

親として、お金や土地などの資産を残すよりも、ものごとの見方、考え方の基準となるものさしをきちんとつくってあげましょう。無理難題や青臭い議論も、親を信頼しているからこそでは……

2

家庭生活で大切にしたいこと

「我が家に帰るとほっとする」誰もが感じることです。これは、自分の家では、気ままだが許されるということではなく、家族同士がつくってきたルールをみんなが守っているという安心感があるからなのです。「家風」といえば少し古臭いですが、我が家のルールは、親の価値観と家族の話し合いから生まれます。

子どもにとって家族は、1番身近で多少の甘えも許される場所です。家族にしかいえないこと、家族だから理解できることもたくさんあります。しかし、世話をやきすぎるのもいけないのです。家族であっても、

言葉にして気持ちを伝え、コミュニケーションの能力を高める機会がほしいものです。

「さあ、話し合いの時間です」と構えるのではなく、中学生のこの時期だからこそ親が率先して、「日常的なあいさつ」「出かける時の声かけ」を始めてみませんか。子どもは、表情やしぐさでコミュニケーションをとっている場合もあります。

子どもが話しかけてきたときは、チャンスを逃さず、じっくりと話を聞いてあげたいものです。いつも「から返事」では、いい加減にあしらわれていると感じ、「話したい」という気持ちがなえてしまうものです。



ワンポイント アドバイス

—理想的な家族とは—

- 1 家族が一つ屋根の下に住んでいること
- 2 両親の力関係のバランスがとれていること
- 3 両親と子どもが密着せず独立していること
- 4 家族全体が同じ目的をもって存在していること

(エール大学 リッツ教授)

3

おたくの家庭生活のリズムは どうですか

人間の体や脳は、目覚めてから約2時間後にようやくバランスよく動き出すといわれます。

学校の授業もちょうどその条件のよい時間帯に設定されています。もし、遅く起きて、学校到着が目覚め30分ぐらいしかたっていないなかったらどうでしょう。体も脳も、朦朧（もうろう）とした状態です。登校時の交通事故や学習に集中できないなど、心配なことがたくさん考えられます。おまけに「朝食抜き」ということになれば、脳はすっかりお休み状態です。「朝食は、脳への最高の栄養」といわれます。しっかりとした朝のスタートは、その日をしまりのあるものにしていきます。

さらには、夕食後の生活を工夫してみま

しょう。学習時間、テレビの視聴、友だちとの電話など、自分の必要とする時間を決めて上手に使っていく力を育てたいものです。これは大人になったとき、仕事を能率的に処理していく力になります。

食事やだんらんなど、家族共通の時間をはっきりさせるとともに、自分の時間については、しっかりと責任をもたせましょう。もちろん親も同様です。朝起きる声かけの回数は、子どもと約束し、それ以上は、心を鬼にして我慢してください。何回かの失敗は覚悟のうえです。

自由な時間を確保しながらも、家族全員がそろって時間を軸にした家庭生活でありたいものです。



ワンポイント アドバイス

我が家には我が家の決まりがあり、これだけは守りたいという、最小限のものは買きましょう。

4

思春期 ~ゆれ動く心~

思春期にある中学生の時期は、心身ともに大きく成長し、身体的にも心理的にも子どもから大人への移行期です。

身体的には、二次性徴の発現を中心とする急激な変化が始まり、男らしさ、女らしさの身体的条件が整い、この身体変化を受け入れることが一つの課題となります。

心理的には、それまでは素直に受け入れてきた親や教師など身近な大人への言動に対し、反抗的になります。これは、第二反抗期といわれるものであり、自立するためには避けて通れないものです。

自己意識が強まり、「自分は、一体何もの

であるか、自分は何をしようとしているのか」という大きな課題に取り組むために自分自身を見つめながら、大人から距離を置こうとする一方で友人とより密接な交友関係をもとうとするのが、この時期の特徴でもあります。

思春期は、たくさん悩み、反抗し、自分で考えながら大人として自立していく大切な時期です。大人にできることは、子どもを信じて見守りながら、ともに考え、理解することです。



ワンポイント アドバイス

少し離れて見守る、心のゆとりをもちましょう。干渉し過ぎは、子どものためにも、親のためにもなりません。

子どもの思春期は、親にとって、子離れの時期です。

5

二次性徴の発現 ～中学生の身体的発達の特徴～

思春期は、二次性徴とともに始まります。男女の違いがなく発達してきた子どもが、女子は10歳ぐらい、男子は12歳ぐらいから急に身長が伸び始め、男女によって体つきや生理現象にも違いが見られるようになります。これを二次性徴といいます。その発

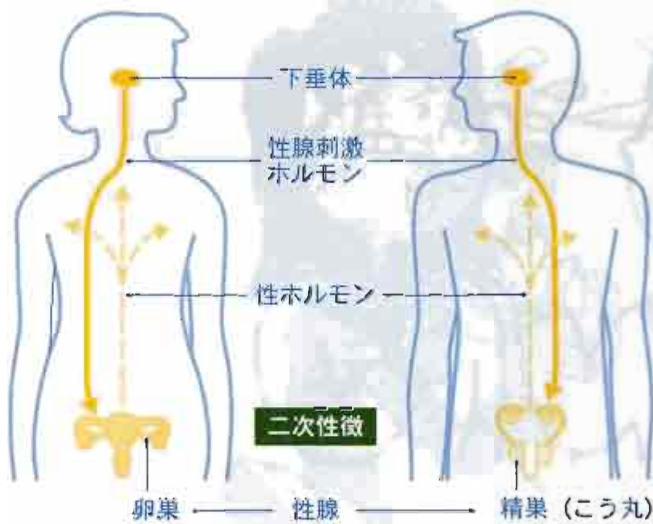
育、発達の手度や程度には個人差があり、周りの人と比べて心配する必要はありません。体内のホルモンのバランスがわるためイライラしたり、身体の変化にとまどい、悩むこともあるでしょう。異性への関心が芽生え始めるのもこの時期です。

思春期の体の変化

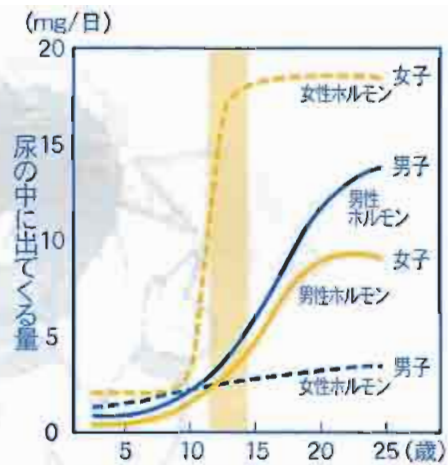
思春期は、ホルモンの働きにより、生涯を通して1番ドラマティックな性成熟がおこる時期です。女子は卵巣の発達により月経が始まり、男子は精巣の発達により精通が始まります。

成長ホルモンは、脳下垂体から分泌されるホルモんで、骨、筋肉、内臓、皮膚、毛などの成長を促進します。

分泌性ホルモンは、精巣や卵巣から分泌されるホルモんで、体つきを変化させたり、生殖器の発育を促進させたりします。



●性ホルモンの分泌のしくみ



●性ホルモン量の年齢変化
[一日に尿に出てくる量](ハミルトン)

ワンポイント アドバイス

外見は大人でも、まだまだ子どもです。お父さん、お母さん、しっかり目をかけ続けましょう。



6

子どものストレスを 解消するために

友人と話をした後やスポーツをした後、気分が軽くなるとかすっきりするといった経験は、誰もがあるといいます。この言葉に出して話す言語化と体を動かす行動化が、ストレス解消の二つの柱となります。

言語化は、友だちだけでなく、家族や、場合によってはペットに向かって話すことで、行動化はスポーツの他にも友だちと一緒にゲームをしたり、家族でキャンプに行くことなどでストレスを解消します。

しかし、信頼できる家族や友だちがいな

いと、うまく言語化や行動化ができなくなり、家庭内暴力や非行、いじめなどの非社会的行動をおこすおそれがあります。また、そのストレスの攻撃性が内側（自分）に向けられたときには、神経症や心身症といった精神症状をおこします。

ストレスを言語化や行動化で解消することは、誰にとっても大切なことですが、思春期という嵐の中でストレスを受けやすい状態の中学生にとっては、特に必要なことです。



ワンポイント アドバイス

子どもが電話で長話をして困るといった話をよく耳にします。ある程度は、大目に見てやることも必要です。

7

望まれない命

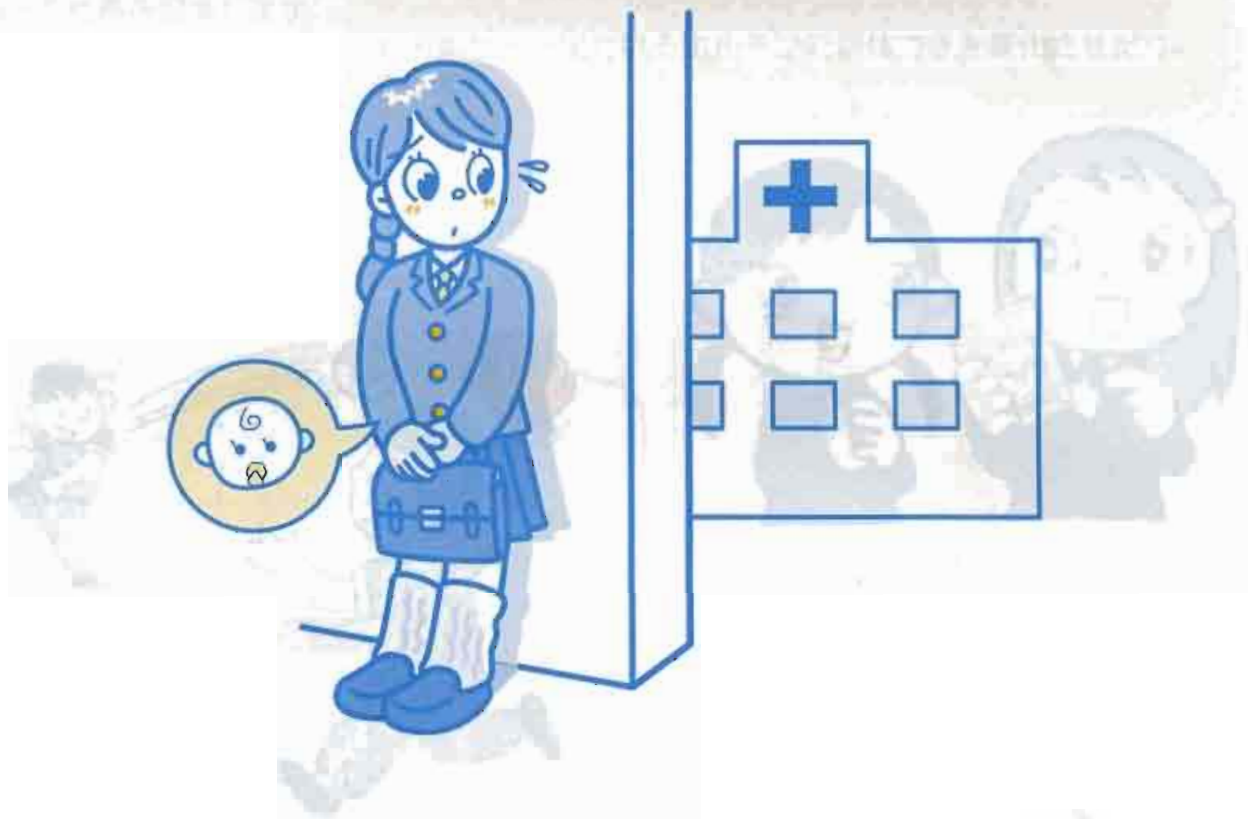
～セックスについて～

「愛していればセックスするのは当たり前」という風潮が若者たちの間に見られ、セックス経験のある中学生の割合は10%を超えています。「うちの子に限っては」とか、「まだ子どもだからそのようなことはしない」と思っている親も多いと思いますが、この現実に対し、あまりに無防備といえます。

妊娠してしまい、産婦人科を受診した中学生の両親が、「まさか自分の娘がそのようなことをするとは思わなかった」という話もあります。

子どもが中学生になったら、「男の子に対しては父親」が、「女の子に対しては母親」が、「望まない妊娠を防止するため、性感染症にかからないため、セックスをしてはいけない」ときちんと伝える必要があります。

今、行われている避妊法で100%完全な方法はなく、エイズをはじめとする性感染症の危険性もあります。もし妊娠してしまえば、その子どもの心には大きな傷が残り、性感染症にかかれば、治癒した後でも血液検査でわかる痕跡が一生消えずに残ります。



ワンポイント
アドバイス

無防備なセックスが行われたとき、72時間内であれば、産婦人科で緊急避妊ピルを処方してもらうことができます。早ければ早いほど効果があり、2錠の服用で、有効率は97%と、かなりの効果があります。

8

食べることの見直し

～我が家の味は最高～

「食べる」ということは、生命の維持だけでなく、「共食」を通して人間的な結びつきが生じ、「おいしい」「楽しい」という心理的な満足感を与えるものです。市販の惣菜は、手軽で便利ですが、味に飽きることはありませんか？


家庭のおかずは、知らず知らずのうちに、家族一人ひとりの好みや体調、天候、前日の献立をもとに、味付けや食材の組み合わせが工夫され、飽きることがないのです。ときには、失敗もありますが、次へのステップもあり、食卓の話題づくりに一役買うこともあるでしょう。

共働き家庭が増え、食事づくりに時間が

かけられず、つい市販の惣菜に頼りたくなります。市販品には保存料、添加物など、長い目でみると不安な材料が使われていることがあります。少量でも、成長期の子どもには、これから長い間、摂取していくことを考えると、新鮮な材料を使って責任のもてる食事を与えたいものです。

大人ばかりでなく、子どもの生活も忙しくなり、時間を決めて家族そろって食事をするのが難しくなっています。こんな時代だからこそ家族そろっての食事は、共通の話題を深めるチャンスであり、楽しい食卓となります。

一日に必要な食品と量

 油脂 (含種実) 25g (大さじ2)	 穀類 男 440g 女 390g	 乳・乳製品 400g (牛乳2本)
 果物200g	 肉・魚 男 140g 女 130g	 砂糖20g (大さじ2強)
 いも100g (じゃがいも中1個)	 野菜300g	 大豆・大豆製品 100g
		 卵50g (卵1個)

ワンポイントアドバイス

—お弁当は親から子どもへのメッセージ—

「3年間、毎日のお弁当づくりありがとう。おいしかったよ」卒業式の会場にいた母親たちの苦勞が報われた一瞬でした。

9

今、中学2年生はこんなことを考えています ～中学生の意識調査から～

中学2年生は、学校生活をどのように感じているのでしょうか。

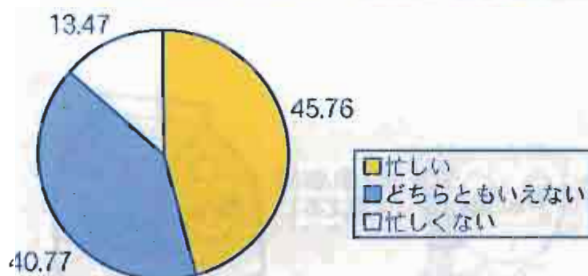
平成12年に県教育委員会が行ったアンケート調査によると、全体の約半数の子どもたちが、「学校生活は忙しい」と回答しています。その理由として、「クラブ活動(部活動)やスポーツ少年団活動が忙しいこと」を1番にあげており、次いで、「勉強することが多い」「休み時間が少ない」などをあげています。

では、中学2年生は、今、何を1番がんば

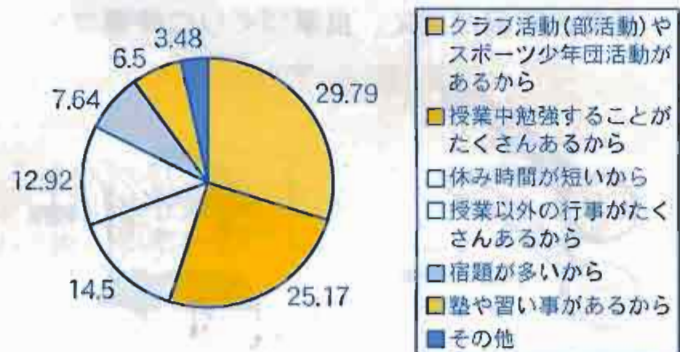
っているのでしょうか。「あなたが、今、がんばっていること」という問いには、学校生活が忙しいと感じる理由で最も多かった「クラブ活動やスポーツ少年団活動」が1番で、「自分の興味があることに取り組むこと」が2番目になっています。

これらのことから、本県の中学2年生は、クラブ活動や少年団活動によって、学校生活が忙しいと感じているものの、今打ち込んでいるのもクラブ活動やスポーツ少年団活動であることがわかります。

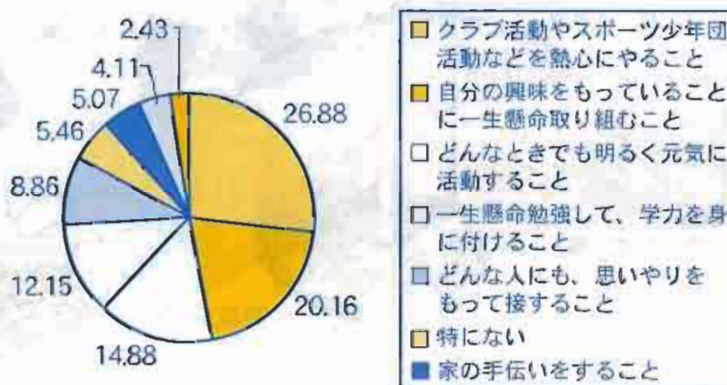
学校生活について忙しいと感じていますか



あなたが忙しいと思う主な理由は何ですか



あなたが今がんばっていることはなんですか



ワンポイントアドバイス

活動の目的・目標を明確にすることや活動に取り組む価値を見出すことが、活動意欲を高めます。

10

完全学校週5日制が始まります

平成14年度から、毎週土曜日を休みとする完全学校週5日制が、すべての公立幼稚園、小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校において、一斉に実施されます。

学校週5日制は、学校、家庭、地域社会での教育や生活全体で、子どもたちに「生きる力」をはぐくみ、すこやかな成長を促すものです。

土曜日や日曜日を利用して、家庭や地域社会で子どもたちが、さまざまな生活体験や社会経験、文化・スポーツ活動などをすることが望まれています。

文部科学省の調査では、「小さい子を背負

ったり、遊んであげたりする」「果物の皮をむいたり、野菜を切ったりする」「昆虫を捕まえたり、魚を釣ったりする」などの生活体験や自然体験の豊富な子どもほど、「友だちが悪いことをしていたら、やめさせる」「バスや電車で席をゆずる」など道徳感や正義感が身についているという結果がでています。

県や市町村でも、各地域でも中学校の参加を呼びかけるなど、さまざまな体験活動の場や機会の充実に努めています。

「参加する、奉仕する、ボランティアする」などいろいろな機会を有効に考えたいものです。



*体験の有無を5段階で評価
文部科学省「子どもの体験活動等に関するアンケート調査」(平成10年度12月)より



ワンポイント
アドバイス

県や市町村の広報誌や各学校の広報には、体験活動の情報が掲載されています。親子で参加できる活動を探してみませんか。

11

進路指導

進路は親子の語りから

中学2年生になると1年生のときとは違い、どうしても自分の進路や受験について意識し始めます。将来について考える最初の時期ではないでしょうか。

親子で、進路や受験の話題になると、「希望する高校＝予想合格点」という話し合いに終始してはいないでしょうか。

親はややもすると、「子どもがテストで何点とったか」「クラスで何番目か」などと他の子どもの点数との比較に目を奪われがちになります。親の期待からだけで子どもを評価することは、子どもたち一人ひとりの個性や成長のためによくありません。

中学2年生は、子どもとしての一面をもちながらも、内面は鋭い知性と感性をたくわえつつある時期でもあります。ともに人生を語り、生活を共有できる年齢になっていることに気づいてほしいものです。この時期、子どもたちは、周囲からのアドバイスや親子の会話によって、自分自身も知らずにはいた新たな能力や適性に気づくことが多くあります。

子どもの意志を尊重しながら、進路や受験、将来について大いに語り合いたいものです。将来を見とおし、自分の好きなもの、打ち込みたいものが見えるようになると、勉強は、単なる受験のためだけにあるものではないという自覚も芽生えてきます。



ワンポイント アドバイス

子どもには子どもの人生があります。常に親の価値観だけで方向を決めていると、子どもは独自の価値観を形成できなくなってしまいます。

地域が育てる勤労意欲

今、中学生は、地域に目を向け、地域に学び、地域で育っています。

中学生時代は、大人への一步を踏み出す重要な時期です。家庭や学校、地域社会で出会うさまざまな体験が人間形成の貴重な糧となり、進路を決定する能力や態度を育てます。

多くの中学校では、「まちとの関わり」「人との関わり」をねらいとして、地域での職場体験やボランティア活動を行っています。子どもたちは、社会体験を通して地域社会とのつながりを学んでいます。

ある職場で体験学習を終えた子どもは、「働くことの大変さ、社会人として身につけておかなければならないマナーの大切さを理解した」と感想文に記しています。また、親の職場を訪問見学した子どもは、「親の働く姿に感動し、仕事の厳しさを知った」と感想を述べています。

このように多くの子どもたちは、働くことや社会に奉仕することによって得られる達成感や喜びを体得しています。地域において、多くの社会体験を重ねることは、自分の職業の適性や将来設計について考えるよい機会となっています。

ワンポイント アドバイス

学習も仕事も人生も、汗を流し、失敗を重ねながら達成していくものです。子どもを、励まし、温かく見守っていきましょう。親は子どもの応援団です。

いじめのパターン

いじめには、身体的暴力、金品・物品の強要、無視・仲間はずれ、一見悪ふざけに見える行為・からかい・ひやかし等さまざまなパターンがあります。

いじめは早期発見が大切

いじめにあった子どもの多くは、誰にもいえずとても悩んでいます。また、子どもはさまざまな理由でそのことを知られないように隠します。

しかし、どんな場合でも子ども自身から何らかのサインがでてくるものです。いじめに対する指導は、早期発見が大切です。

子どものサインを大人が見逃さないように気をつけるのが大切になります。子どもの変化に気をつけましょう。

いじめに気づいたときの対応

いじめに気づいたときは、子どもが追い詰められている気持ちをまず受け入れ、心から安心できる環境づくりと子どもの味方になるという姿勢を崩さず対応していくことが大切です。

こんなときは、すぐに担任に子どもの悩みを正しく伝え、解決の方法を一緒に考えましょう。



ワンポイント アドバイス

—家族で心がけたいこと—

- 1 子どもが安らげる家庭であること
- 2 何でも気軽に話せる雰囲気をつくること
- 3 家族みんなが、常に相手を思いやる気持ちで話したり、行動したりすることに努めること

13

子どもの心を早くキャッチしよう

～子どもが学校へ行かなくなったとき～

子どもが身体的な病気とは思えないのに学校へ行かなくなったとき、親は驚き、とまどい、そしてどうしたらいいのかわからず、立ちすくんでしまうのではないのでしょうか。

このようなとき、どのようにしたらよいのでしょうか。

明らかな身体疾患がなく、学校を休み出した場合は、躊躇（ちゅうちよ）せず小児科の診察を受けてみましょう。身体の病気がないかどうか、きちんと調べてもらうことが大切です。学校に行かなくなった、行けなくなった子どもの35%に身体の病気が見つかり、それを治療することで登校できるようになっています。身体の病気の中には、起立性調整障害のように不定愁訴が多く、普通に見ただけでは身体の病気とは思えないものもあるので、単純に不登校と決めつけるのは大変危険なことです。

学校に行けないのは、身体の病気ではなく、心因性の不登校と考えられたときでも小児科医は心因と理解したうえで、あえて今でいる身体症状に対応します。そして心因性の原因が深く、カウンセリングが必要なときはカウンセリングを受けるようにしましょう。

誤解している人が多いようですが、子どもの心に異常があるので精神科医に診てもらわけて、不登校の子どもに何かよいアドバイスをしてもらうために臨床心理士がカウンセリングをするのではないのです。臨床心理士は、子どものよき理解者、話し相手としての専門家なのです。不登校は人との関わりの中でしかいやすことができません。カウンセラーは人との関わり合いが途切れそうになっている子どもの心をつなぎとめ、子ども自身が何らかの意味での転機、契機などをつかんだり、発見したりするまでその心を支えます。

不登校が始まり2ヶ月以内に受診して、カウンセリング等の適切な対応を受けた例と、2ヶ月以上たってから受診した例では、前者は平均36日で再登校できていますが、後者は平均527日もかかっています。不登校の原因は育ち方、学校環境、社会環境が複雑にからみ合ったもので、すべての不登校の子どもが初期の適切な対応により早期に登校できるとは限りませんが、比較的早期に再登校できる子どもが多いのも事実です。「登校刺激を加えない方がよい」などというのを正しいとして、結局何もしないままにいるというのが、1番よくないことです。

ワンポイント アドバイス

やみくもに登校刺激を加えるのはよくありませんが、次の3つのケースは登校刺激が必要と思われます。

- ① 保育園、幼稚園、小学1～2年生までの登園渋りや不登校は、「いじめっこがいる」「先生が怖い」等の単純な理由によるもので、原因を解決してあげたうえで登校を促しましょう。お母さんが入り口までついていってあげるものよいでしょう。
- ② 不登校のごく初期で、登校刺激により効果がある場合があります。「強制」にならないようにしてみてください。「先生が待っていてくれる」「自分の親がこんなにも自分のことを心配してくれている」というメッセージを受け止めるだけでも登校できるようになるかもしれません。
- ③ 不登校の回復期で、生活リズムも正常に戻り、家族や友だちとの会話も復活し、外出も普通にできるようになったとき、きっかけをつくるために登校を誘ってみることも一つの試みになります。

落ち着く気配を見せていた少年非行の発生件数がまだ増えつつあります。数ばかりではありません。質的にも凶悪化の一途をたどっています。

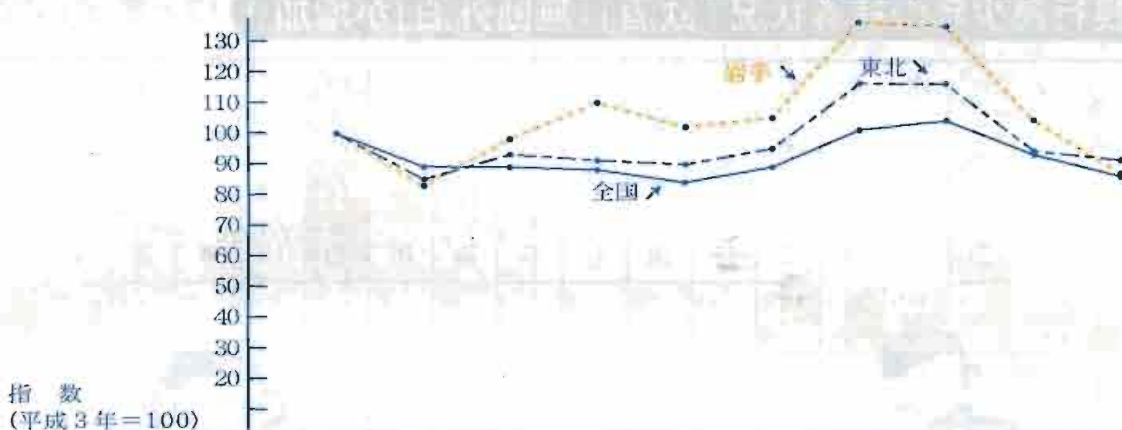
県内では毎年一万人余の少年が補導されています。そのうち、中学生は約10パーセントの1,000人余りで、窃盗、恐喝、深夜徘徊、急性アルコール中毒、出会い系サイトがらみの性非行等で補導されています。自己の満足や欲にとらわれて、家族や被害者の苦しみに、彼らの判断力は及びません。

犯罪被害少年の問題も深刻です。全国で

は、平成12年中に17人の中学生が犯罪の被害者として命を落とし、146名余が強姦の被害にあいました。事件や事故、災害等によって心に深い傷を負った被害者は、長い年月をPTSD（心的外傷後ストレス障害）によって苦しむといわれています。

社会の動きや身の回りの出来事に関心を持ち、家族で話し合う習慣をつくりましょう。現実におきている問題について語り合うことは、一種のシミュレーションともなり、心のブレーキ機能やセキュリティを高めることにもつながります。

刑法犯少年の推移 (全国・東北・岩手) ~過去10年間~



年別		平3	平4	平5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12
岩手	刑法犯少年(人)	1,297	1,077	1,272	1,432	1,321	1,361	1,758	1,749	1,345	1,133
	指数	100	83	98	110	102	105	136	135	104	87
東北	刑法犯少年(人)	13,086	11,148	12,218	11,929	11,839	12,393	15,226	15,237	12,307	11,845
	指数	100	85	93	91	90	95	116	116	94	91
全国	刑法犯少年(人)	177,097	157,167	158,300	155,079	149,137	156,823	178,950	184,290	164,224	152,813
	指数	100	89	89	88	84	89	101	104	93	86

(岩手県警察本部資料)



被害にあわないためにも、普段から家族で緊急時の連絡方法、緊急避難の場所・方法等を取り決めておくと、いざというときに威力を発揮します。

15

ストップ・ザ非行!

「シンナーはダメだけど、ライター用ガスはいいんだよね」「お金をもらったら売春だけど、物はいいんだよね」という中学生がいます。

中学2年生は、思春期の真っただ中で、心も身体も、これ以上ないというくらい、不安定で揺れ動いています。だからこそ、支えてくれる確かな何かがほしいのです。別の言葉でいえば、自分を正当化してくれる倫理的なよりどころです。「シンナーはダメだけど…」もその一つです。非行は、こうした、人づてに聞く不確かな情報やうわさ話が入り口になっていることも少なくあ

りません。

中学2年生にもなると、IT機器等の操作能力は大人より優れているかもしれません。一方、うわさ話などの不確かな情報に翻弄(ほんろう)されているのも事実です。今、中学生の間には、酒・煙草・薬物、性に関する誤った情報が広がっています。病気や被害にあって初めて、ことの重大さに気づく中学生が大半です。無知は最も危険です。正確な知識はセキュリティの基本。今こそ、親として正確な知識と情報の伝授に心がける必要があるのではないのでしょうか。

不良行為少年の補導状況「飲酒」「無断外泊」が増加!!

年別	行為別	合計	飲酒	喫煙	薬物乱用	粗暴行為	刃物等所持	金品不正要求	金品持出し	性的いたずら	暴走行為	家出	無断外泊	深夜はいかい	怠学	不健全性的行為	不良交友	不健全娯楽	その他
平成12年		9,715 (1,833)	690 (115)	3,885 (450)	1	56 (8)	2	10	8 (1)		406 (15)	82 (57)	37 (32)	3,663 (4,333)	170 (48)	33 (17)	630 (148)	39 (3)	6
平成11年		10,582 (2,042)	650 (132)	4,360 (489)	9	60 (3)	9	10 (3)	9 (3)		465 (26)	91 (68)	49 (23)	3,820 (1,009)	220 (78)	57 (31)	729 (167)	39 (6)	4 (1)
増減		△867 (△209)	40 (△17)	△505 (△39)	△8 (△2)	△4 (5)	△7 (△2)		△1 (△2)		△59 (△11)	△9 (△11)	14 (9)	△157 (△70)	△50 (△30)	△24 (△14)	△99 (△19)		2 (△1)

()内は女子で内数 △印は減少を示す

(岩手県警察本部 平成12年)



ワンポイントアドバイス

親が構えると子どもも構えます。大切なことほど事実即して淡々と話してみましょう。「君はどう思う?」と聞いてみるもの効果的です。

16

心を育てるボランティア活動

「ボランティア＝人のために何かをする」というイメージが多いかと思います。さて、本当にそうでしょうか。

ある生徒の作文です。

私は、そのおばあさんを見ていて、「何かをしてあげたい」でも、何をしたいのかわかりませんでした。そのとき、別に考えることじゃなくて、「自分ができるところをしてあげればいいのだ」と思いました。私のできることは、身の回りの世話でした。これぐらいしかなかったからです。でも、そのおばあさんは、何回も「ありがとう」「ありがとう」といってくれました。十分な介護をしてあげたわけでもないのに、「役に立てたかな」と思っていました。しかし、私にとっては小さな小さなことだと思っていたことが、おばあさんにとってはうれしくて、してあげたことがありがたいことだったのだなと思うと、私までうれしくて涙がこぼれるのでした。今回のボランティアをとおして、自分なりに何かを得られたよう

な気がします。家のおばあさんは、「うるさい」と思ってばかりでした。でも思えば、「みんな私のことを思って話すのだな」ということがわかるようになりました。心配してくれているのに「うるさい」って思った自分が恥ずかしいです。そう思えたのは今回のボランティアに参加したからです。

「少年は、必要とされてはじめて、大人になる」この言葉は、ボランティア活動が、人間の成長と自立にどのような貢献をするかについての意味を見事にいい表しています。中学生が、他の人や社会の「役に立つ」存在として周囲に認められ、かけがえのない存在として必要とされていることを知るきっかけになります。ボランティア活動は中学生の社会への参加意識を育てるだけでなく、人間としての成長と自立のための手段でもあるのです。



ワンポイント
アドバイス

ボランティア活動は、社会貢献という形をとおして、自らが学ばせてもらう活動です。

17

中学生の人権とは

～子どもにも意見を表明する権利があります～

子どもの成長は、保護者によって大きな喜びです。しかし、成長するにしたがって、親から離れていきます。中学生のこの時期は、まさに、親から離れ一人の人間として成長するための大切な時期といえるでしょう。

第二反抗期といわれるこの時期は、親からの自立を求め、親の考えに対して自分の考えを主張する時期です。子どもにとってよかれという親の思いや、保護、善意、愛情の名のもとに一方的に大人の価値観や倫理観を押しつけると子どもの反抗は強くなるばかりです。

子どもには子どもの世界があります。そ

れはときとして、大人の価値観や倫理観から見れば、悪と見えることもあり、許されないことと映ることもあるでしょう。しかし、子どもの時代が大人の準備期間としてあるのではなく、子どもとして、その存在自体があるのですから、子どもが子どもとして生きている時間が限りなく尊重されなければなりません。

そのためには、子どもの人格を尊重しながら、自己責任の原則のもと、自らの判断で選択し、行動させるという環境づくりを援助することが大切です。

ワンポイント
アドバイス

「子どもは大人と違ったもの」であり、不完全な大人としてではなく、子どもとして理解されなければならない存在である。

(J. J. ルソー)

18

地域の見直し

~自分の家でできることから始めよう~

もし、地球が太陽にもう少し近かったり、遠かったりしたら、地球には水は存在せず、もちろん生物も私たち人間も生まれなかったでしょう。水と緑にあふれた地球は、宇宙の中でも奇跡的な存在です。その地球が、今苦しんでいます。

地球を救うことができるのは、地球人である私たちしかいないのです。地球環境を守るために、親子でできる環境保全に取り組んでみませんか。

電気やガスなどのエネルギーを節約し、二酸化炭素の排出をおさえるために、今日からできることがあります。「照明・電気機

器のスイッチをこまめに消す」「衣服で温度調節をする」「お風呂は続けて入る」「生ゴミはネットに集め水を切る」「合成洗剤やシャンプーは適量を使う」などです。このような行動が地球の温暖化防止につながるのです。

「混ぜればゴミ」「分ければ資源」ゴミ分別を徹底し、一人ひとりが身近にできることから始めるしかありません。環境に優しい暮らし方について、子どもと話し合い、実践してみましょう。暮らしの中のちょっとした心がけが、地球環境保全になるのです。

ワンポイント
アドバイス

飲み残した味噌汁を、軽い気持ちで台所に流す。その結果、汚れた川の水をきれいにするには、おわん7,000杯の水が必要になります。

今、青少年に最も欠けているのが地域社会の一員としての体験です。そのため、意図的に地域の活動に我が子に関わらせたり、隣近所の人たちと触れ合いを進めたりすることが必要です。

自分の住んでいる町なのに、知らないことがたくさんあるという子どもも多いのです。地域を知るために、親子で身近なボランティアをするというのはいかがでしょうか。自分の町がもっとよく見えてきて、もっと好きになります。

たとえば、公園を清掃する、散歩しながら空き缶を拾う、公園のブランコなどの施

設が壊れていないか、危ないものがころがっていないか注意して見るなどの活動があります。また、中学生にとって、図書館や博物館などの手伝いや地域のスポーツ活動のお手伝いは結構面白い発見に出会ったりするものです。子どもの興味がある公共施設から始めると効果的です。

地域からは、人間として生きていくための知恵や体験をとおして教わります。そこから学んだことから、社会のしくみやもう一人の自分に出会うという新しい世界が広がっていきます。



ワンポイント アドバイス

毎日の暮らしの中に、ボランティア活動のヒントがたくさん隠れています。身近なところから、できることから取り組むことが第一歩です。

中学2年生ぐらいになると急に無口になったりするものです。そんなときは無理に根ほり葉ほり聞こうとしないで、じっと見守っていきましょう。親子というよりは「男は男同士」「女は女同士」、どこか伝わりあう部分が強くなってくる時期です。同性として積極的に子どもたちに関わってみませんか。

親が自分自身の少年少女時代の失敗や戸惑いを語ることで、自分も父母と同じことを悩んだり、考えたりしていたのだということを知って、子どもは安心します。失敗を語ることによって親の権威がおちることはありません。かえって同性として身近に感じたり、「そんなことはしない方がいいな」などと自分を律する材料になったりするも

のです。

子どもの話はどんなささいなことでも真剣に耳を傾けてください。反対だと思うことやとんでもない要求でも、ゆっくり時間をかけて順序立てて聴いてください。途中で口ごもったりしても、じっと待ちましょ。しっかり向き合っとうなずいて聴いてください。子どもは話しているうちに自分の矛盾や無理に気づいてくるはず。そのとき父親の立場、母親の立場としての考えを話してください。もちろん両親の考え方に、食い違いのないことが大切です。男子は、そろそろお父さんとの男同士の付き合いを望み始めるものです。ここ一番というときのお父さんの出番が要求される時期です。



ワンポイント アドバイス

「聴く」というということは、子どものプライドを大切にしながら、お互いの会話を進める潤滑油です。

21

親子のだんらん

～話し上手・聞き上手に心がけましょう～

家族が無言でテレビを見て、番組が終わればまた無言でそれぞれの部屋へ戻っていく……。今や子ども部屋にもテレビがある家庭も多くなりました。寂しいことですね。夕食のときなどちょっとだけ意識して家族全員で話す場を設定したいものです。食事はお腹を満たすとともに心にも栄養を与える時間でもあります。学習と行動面の話だけでなく、自らの周囲の出来事についてお互いの意見を出したりすると、案外、子どもの考えがしっかりしていることに気づかされることがあります。

話し上手よりも聞き上手の方が対話をうまく進めることができます。子どもの言い

分や考え方が未熟だと思っても、正しいところは大いに認め、また好ましくないあり方は機嫌をそこねることを恐れず、しっかりと目を見て穏やかに教えてあげたいものです。

ときには、親の方から相談を持ちかけ、頼りにするという姿勢を見せると、子どもは大人扱いにされることが何よりも嬉しいと思う時期ですから、かえって自分を見直すきっかけになったりします。家族の一人として、相談にのって欲しいという姿勢を大人が見せてもいいのではないのでしょうか。

ワンポイント
アドバイス

- 物わがりのよすぎる親ではちょっと心配です
- 一言のよけいな教訓はなるべくさげましょう
- じっくりと聞くことで親も子も案外冷静になれます

22

子どもとともに夢を語り合おう

現代社会のかかえる問題点に、家庭の崩壊、地域の教育力の低下、将来への見とおしのもてないことなどがあげられます。そのような社会状況の中で、子どもたちが夢をもって生き抜いていくためにどんなことをしていけばよいでしょうか。

夢を現実にさせる大切なことは、家庭における教育です。夢には将来の大きな構想や小さな思いつきもありますが、身近な活動の中から目標を立てて達成させるための実践活動を継続的に行うことがたいせつです。その活動をとあして子どもの感性、知性がはぐくまれます。今、取り組まなければならない自分自身の課題に気づき、自ら

解決することが自立につながります。

中学生の子どもにとって、「夢=進学」とだけ考えられがちです。目標が高校進学でそれから先はまたそのとき考えればよいというのでは、大きな可能性を秘めたこの時期を何の目的もなく過ごすことになりかねません。

将来を見通し自分の好きなこと、打ち込みたいものに気づき、夢と希望を見つけることができれば、学習の目的や自分の課題がはっきりし、もっと自分の世界を広めていけるでしょう。そのためにも親自身が多様な価値観を持つことが必要です。



子どもに夢をもってという前に、親自身が生き生きとした人生を送ることが大切です。

「親の背中を見て子は育つ」

23

電話相談「すこやかダイヤル」

昔は姑さんがいて子育てのノウハウを自然に教えてもらいました。しかし、今のお母さんは教育書などに頼りがちです。

教育書はあくまでも一般的で平均的な例であって、すべてのことが我が子に当てはまるとは限りません。教育書と微妙なずれに気をもんで不安になっているお母さんが少なくありません。

子どもにはそれぞれ個性の違いがあり、当然、個人差があります。幼い子どもをよく見ていると、昨日よりは今日と日ごとに知恵がついたり体力がついたりする様子が

わかり、成長の素晴らしさや子育ての楽しさを実感することができます。

中学生になるとその個性はもっと多様になります。周囲に相談する人が居ないと、ますます心配になってくるものです。そんなとき「すこやかダイヤル」にお電話ください。一緒に解決の方法を探していきましょう。

また、市町村では公民館等に子育てサポーターを配置し、相談体制の整備を進めています。



相談電話 **すこやかダイヤル**

0198-27-2134 平日(10:00~17:00)

019-643-5500 平日(17:00~22:00)

平成13年度家庭教育子育て支援推進事業「企画推進委員会」委員名簿

氏名	所属
小幡直士	水沢教育事務所在学青少年指導員
◎小原カル	すこやかダイヤル電話相談員
工藤哲	岩手日報社学芸部記者
齋藤順子	盛岡市立大慈寺小学校長
佐々木幸寿	岩手県教育委員会事務局学校教育課指導主事
武田京子	岩手大学教育学部助教授
三浦弘子	社会福祉法人東水沢保育園園長補佐
高橋正信	岩手県立県南青少年の家所長
宮本中子	岩手県警察本部生活安全部少年課少年サポートセンター副所長
八重樫勝	盛岡市立下橋中学校長

(◎委員長)

(50音順)

平成13年度家庭教育子育て支援推進事業「家庭教育資料作成委員会」委員名簿

氏名	所属	分野
相原正典	一関教育事務所社会教育主事	社会教育
菊地玲子	盛岡市立下橋中学校養護教諭(総合教育センター長期研修生)	保健
佐々木雅	石鳥谷町立石鳥谷中学校教諭	学校教育
佐藤玲子	すこやかダイヤル電話相談員	家庭教育
高橋廣至	岩手県教育委員会事務局学校教育課指導主事	学校教育
◎武田京子	岩手大学教育学部助教授	家庭教育
千葉敬	水沢教育事務所社会教育主事	社会教育
深田好昭	岩手県教育委員会事務局学校教育課指導主事	学校教育
前多治雄	岩手県立中央病院小児科長	医学
宮本中子	岩手県警本部生活安全少年課サポートセンター副所長	社会教育

(◎委員長)

(50音順)

平成13年度家庭教育子育て支援推進事業

いわてっ子ばんざい

(思春期編)

発行日 平成13年12月25日

編集 岩手県立生涯学習推進センター
花巻市北湯口第2地割82番地13
TEL 0198-27-4555

印刷 株式会社五六堂印刷
盛岡市中央通三丁目16-15
TEL 019-654-5610



子育て相談電話

すこやかダイヤル

0198-27-2134(10:00~17:00)

019-643-5500(17:00~22:00)

上記以外は留守番電話及びFAXで
相談受付実施中(019-643-5500)

発行：岩手県立生涯学習推進センター